

くすの木通信

三高だより第202号

「その先へ」

人権教育課長 大西裕美

2023年、三島高校は100周年という大きな節目を迎えました。コロナが第2類から第5類に移行し、規模縮小やリモートでしかできなかった行事が一つずつ復活。3年ぶりに体育館で全校生徒が集えるようになりました。迎えた100周年記念体育祭、記念式典、文化祭…、新しいページに歴史を刻み、その先へと踏み出しています。

ディズニー創立100周年、関東大震災から100年、愛媛水平社設立から100年。2023年は節目の年です。そんな今年、メジャーリーグでは、前代未聞の二刀流で活躍している大谷翔平選手が日本人初のホームラン王に輝き、将棋界では藤井聡太竜王・名人が史上初の八冠独占という大偉業を成し遂げました。それに加えて特筆すべきは、つい最近行われたアジア大会です。バレー女子のアフガニスタン代表は、ヒジャブで髪を覆って初めて大会に出場しました。試合はストレート負けでしたが、大会出場という歴史を変えた出来事でした。私たちは普通にスポーツを楽しんでいますが、女性に居場所がなく、教育や医師の診療を受けることがままならず、スポーツに親しむことを事実上禁止している国がこの世界に存在します。アフガニスタンの代表選手たちは、母国での迫害を恐れ自分の国から離れて生活し、大会主催OCAの支援を受け今大会の出場が叶いました。今年のノーベル平和賞に決まった女性人権活動家のモハンマディさんも抑圧や人権侵害と闘い、現在も刑務所に収監中ですが、それでも自由を希求する声を上げ続けています。同じ地球上にしながら、自分の意志で生活を決めることができない人々がたくさんいます。困難な状況でもあきらめず一生懸命に生き抜き、次の世代を「誰もが生きやすい平和な未来にしよう」と闘っています。今すぐには何もできなくても、視野を広げ、関心を持ち続けることで「できること、やるべきこと」が見えてくるはずですよ。

今年7月、市内三高校（土居・川之江・三島）の人権委員交流会で識字学級に参加しました。市内在住の中国出身の方のお話や、高知県の識字学級で学ばれた方のお話を聴き、意見交換しました。そこでの体験を通じて、見えていなかった不自由な日常や大切な部分に気づきました。まずは身近なところから、自分たちが住んでいる街をよりよくするために、困っている人がいたら声をかける、見て見ぬふりをすることなく手を差し伸べる、そんな小さなことから行動に移していこうと話合いました。

11月は、「差別を無くする強調月間」です。普段何気なく口にしてしている言葉、「普通」だと思っていることを振り返ってみてください。気づかないうちに、誰かの心を傷つけているかもしれません。そして、いつもとちょっと違った角度から普段の生活を見てみてください。見えないところで支えてくれている人の温かさに気づくはず。2023年、残すところあと2か月です。あなたの優しい一言で必ず何かが変わります。「ありがとう」を合言葉に一日一日を大切にしていましましょう。その先へ、繋いでいくために。